

科目名	スポーツと法Ⅱ	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法律学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Sports and Law Ⅱ	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年	
			開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	おかざき しょうへい	実務家教員担当科目	取得単位	2単位
担当者名	岡崎 頌平	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	スポーツを素材に法学を学ぶ			
到達目標	受講者は、本講義を履修することによって、スポーツに関わるさまざまなニュースに接したときに、どこにどのような問題があるのか、その解決策をどのように考えるべきか、そうしたことができるようになる。			
授業概要	まず、刑法の全体像を確認します。その上で、スポーツの場において法的責任（特に刑事責任）が問題となりそうな事例を通じて、(刑)法学の基礎を学んでいきましょう。また、授業の後半では、刑事手続法についても学びましょう（もっとも、授業回数の関係から捜査と証拠の一部だけになります）。			
授業計画				
第1回	ガイダンス			
第2回	刑法とは何か① 罪刑法定主義・責任主義			
第3回	刑法とは何か② 構成要件・未遂・共犯			
第4回	刑法とは何か③ 違法・責任			
第5回	刑法の基礎(総論)① 夜間潜水事件、柔道整復師事件			
第6回	刑法の基礎(総論)② 熊うち事件、ダートトライアル事件			
第7回	刑法の基礎(総論)③ 正当防衛、勘違い騎士道事件①			
第8回	刑法の基礎(総論)④ 勘違い騎士道事件②；中間試験			
第9回	刑法の基礎(各論)① ドーピング、ハラスメント			
第10回	刑法の基礎(各論)② ギャンブル、eスポーツ・AIと刑法			
第11回	刑事手続法とは何か			
第12回	刑事手続法の基礎① 捜査① (任意捜査と強制捜査の区別)			
第13回	刑事手続法の基礎② 捜査② (逮捕・勾留)			
第14回	刑事手続法の基礎③ 証拠① (自白)			
第15回	刑事手続法の基礎④ 証拠② (違法収集証拠)			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	予習：授業計画を参考に各自の持っているテキストをあらかじめ読む(120分) 復習：配布されたレジュメ等を用いて内容を振り返ること(120分) ※レジュメはポータルサイトを通じて配布するので、確認すること。			
履修条件 受講のルール	法律事例研究Ⅰ・法律事例研究Ⅱ・刑法各論の単位を修得済みであることが望ましい。 また、刑法総論をあわせて履修することが望ましい。 ポータルサイトを通じて事前配布されるレジュメを印刷して持参すること(講義中に配布しない)。 最新の六法を持参すること。			
テキスト	(刑法)内田幸隆ほか『刑法総論』有斐閣(2019) (刑事手続法)田中開ほか『刑事訴訟法〔第6版〕』有斐閣(2020)			
参考文献・資料	井田良ほか『刑法ポケット判例集』弘文堂(2019)；浦川道太郎ほか『標準テキスト スポーツ法学 第3版』エイデル研究所(2020)；山下純司ほか『法解釈入門〔第2版〕』有斐閣(2020)			
成績評価の方法	試験80%(中間試験30%、定期試験50%)、小テスト20%			

	出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜1・2限
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	予習でテキストを読む際は、ぜひ疑問点などをメモして、講義に臨んでください。